



平成 18 年 10 月 20 日

各 位

会 社 名 オリンパス株式会社
代表者名 取締役社長 菊川 剛
 (コード番号 7733 東証・大証第 1 部)
問合せ先 経理部長 川又 洋伸
 (TEL. 03-3340-2111(代))

当社子会社（I T X株式会社）業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、当社子会社である I T X 株式会社 が平成 18 年 5 月 10 日の決算発表時に公表しました平成 18 年 9 月中間期並びに平成 19 年 3 月期通期業績予想を別途資料のとおり修正しましたのでお知らせします。

なお、当社の連結業績については現在集計中でありますので、確定次第発表いたします。

以 上

平成18年10月20日

各 位

所在地	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
会社名	ITX株式会社
代表者の役職名	代表取締役社長 武居 哲彦 (コード番号: 2725)
問い合わせ先 責任者役職名	取締役業務本部長 半澤 彰一
電話番号	03 (4288) 7161

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年5月10日の決算発表時に公表致しました平成18年9月中間期並びに平成19年3月期通期業績予想を下記のとおり修正致しましたので、お知らせ致します。

記

(1) 連結 業績予想の修正

1. 平成18年9月中間期 連結業績予想の修正 (平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	167,000	800	100
今回修正予想(B)	153,400	1,200	4,400
増減額(B-A)	13,600	2,000	4,500
増減率(%)	8.1%	-	-
(御参考) 前期実績(平成17年9月中間期)	183,743	632	1,208

<修正理由>

売上高につきましては、機器販売・サービスにおいて携帯電話販売事業で前中間期比48億円増加したものの計画には達しなかったこと、自動車アフターマーケット事業で新商品の販売開始が遅れたこと、また、投資育成において株式の売却が達成できなかったことにより、当初予想を136億円下回る見込みとなりました。

営業利益において、コスト削減の効果により携帯電話販売事業で利益が上ぶれたことを主要因として、機器販売・サービスでは黒字化しますが、投資育成での株式売却の未達により、当初想定していた17億円の利益から4億円の損失となる見込みとなりました。これにより、経常利益につきましては、経常損失12億円の見込みとなりました。

中間純利益につきましては、経常利益の下ぶれに加え、投資有価証券評価損を特別損失として計上する影響により、中間純損失44億円の見込みとなりました。

2. 平成 19 年 3 月期通期 連結業績予想の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	355,000	4,700	2,300
今回修正予想(B)	339,000	5,000	1,300
増減額(B-A)	16,000	+300	1,000
増減率(%)	4.5%	+6.4%	43.5%
(御参考) 前期実績(平成18年3月期)	346,855	1,967	1,317

<修正理由>

売上高につきましては、投資育成において株式売却の増加が見込まれるものの、機器販売・サービスにおいて携帯電話販売事業、自動車アフターマーケット事業等の売上の下ぶれにより、当初予想を 160 億円下回る見込みであります。

営業利益は、自動車アフターマーケット事業の利益が下ぶれることを主要因として、機器販売・サービスでは未達となりますが、投資育成で株式売却の増加が見込まれることより、全体としてはほぼ当初予想通り推移する見込みであります。

経常利益につきましては、ほぼ当初予想通り推移する見込みであります。

しかしながら、当期純利益につきましては、投資有価証券評価損を特別損失に計上する影響により、13 億円となる見込みであります。

(2) 単体業績予想の修正

1. 平成 18 年 9 月中間期 単体業績予想の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	4,300	400	600
今回修正予想(B)	300	1,600	2,900
増減額(B-A)	4,000	2,000	3,500
増減率(%)	93.0%	-	-
(御参考) 前期実績(平成17年9月中間期)	45,058	1,363	781

<修正理由>

売上高につきましては、投資育成株式の売却の未達成により、当初予想を 40 億円下回る見込みとなりました。

経常利益につきましては、子会社からの配当金等が増加するものの、投資育成株式の売却の未達成による下ぶれ、および投資育成株式の評価損の計上により、16 億円の経常損失の見込みとなりました。

中間純利益につきましては、経常利益の下ぶれに加え、投資有価証券評価損を計上する影響により、中間純損失 29 億円の見込みとなりました。

2. 平成 19 年 3 月期通期 単体業績予想の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	9,700	1,600	1,600
今 回 修 正 予 想 (B)	12,700	3,500	3,000
増 減 額 (B-A)	+ 3,000	+ 1,900	+ 1,400
増 減 率 (%)	+ 30.9%	+ 118.8%	+ 87.5%
(御参考) 前期実績(平成 18 年 3 月期)	56,048	2,076	629

< 修正理由 >

売上高につきましては、投資育成株式の売却の増加を見込み、当初予想を 30 億円上回る見込みであります。

経常利益においては、投資育成株式および投資有価証券の売却益の上ぶれにより、19 億円上回る予定であります。

当期純利益につきましては、投資有価証券評価損を特別損失に計上するものの、当初予想を 14 億円上回る見込みであります。

[業績予想に関する定性的情報等]

上記の業績予想は平成 18 年 10 月 20 日現在における入手可能な情報或いは合理的であると判断する一定の前提に基づいて記載しており、経済環境、市場環境及び下記の当社固有のリスクにより大きく影響する可能性があります。

連結対象会社の決算内容が当社の連結決算に影響を及ぼし、業績が大きく変動する可能性があります。

投資している株式が当初予定通りの価格又は時期に売却できず、当初想定していたキャピタルゲインを得ることができない可能性があります。

投資している株式等の時価が変動し当社の財政状況や連結決算に影響を及ぼす可能性があります。

以 上